

「燃料電池システムの海外展開に関する要求仕様及び国際
標準化動向調査」の公募要領

2020年12月21日

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

次世代電池・水素部

「燃料電池システムの海外展開に関する要求仕様及び国際標準化動向調査」の公募について
(2020年12月21日)

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下「NEDO」という。)は、下記委託事業の実施者を一般に広く募集いたしますので、本業務の受託を希望する方は、本要領に従い御応募ください。

1. 件名

「燃料電池システムの海外展開に関する要求仕様及び国際標準化動向調査」

2. 事業概要

(1) 目的

高いエネルギー効率を有し、低炭素化に貢献できる燃料電池システムは、世界的な地球温暖化問題の解決に向けたキーテクノロジーとして更なる普及拡大が期待されている。また、水素・燃料電池戦略協議会にて策定された「水素・燃料電池戦略ロードマップ(2014年6月策定、2016年3月改訂、2019年3月改訂)等」で言及されているとおり、燃料電池関連の市場規模は今後も拡大することが予想されている。このような環境の下、日本の優れた燃料電池システムを海外で普及拡大させていくことは、温暖化問題解決へ貢献する方策であるとともに、燃料電池システムの輸出拡大を通じて、国内産業の振興に対しても大きな意義を持つ。

我が国は、世界トップの燃料電池技術を有し、他国に先駆けて家庭用燃料電池(エネファーム)や燃料電池自動車の市販を実現してきた。一方で、例えば定置用燃料電池では日本固有のニーズには適応していたが、欧州展開時にはその性能や安全性の観点から仕様の見直しが必要となり、現地での普及拡大の障壁となった。日本が保有する燃料電池技術を今後効率よくグローバルに展開していくためには、その地域ごとの視点で市場が要求する技術仕様を把握し、適切に技術開発にフィードバックしていく必要がある。また、国内ではエネルギー効率に重点が置かれてきたが、環境先進地域である欧州では資源枯渇や大気汚染等への影響も含めた環境性能が重視され始めている。今後日本の燃料電池技術の海外展開を推進する上では、このような環境影響を考慮することは不可欠である。

以上の背景のもと、NEDOでは、2018年度から2019年度にかけて「燃料電池システムの海外展開に関する要求仕様調査」を実施し、世界各地域での国際会議や関連機関での情報収集を行い、その地域で要求される技術仕様を明らかにしてきた。しかし、世界各地域で燃料電池・水素分野の取り組みが活発化する中、日本の燃料電池技術の海外展開を加速させるためには、継続的に最新の動向や技術情報を正確に把握する必要があるため、本調査では前調査の調査結果を踏まえつつ、国際会議や関連機関での情報収集を続け、今後日本が取り組むべき技術開発動向の方向性の戦略を策定し、更新していくこととする。

(2) 事業内容

上記の目的を達成するため、以下の項目の調査を実施する。なお、実施にあたっては、NEDOと緊密に連携する。

① 世界各国の要求仕様調査

日本の燃料電池システムの海外展開を加速するためには、世界各地の要求仕様を把握する必要がある。地域ごとに求められる技術仕様を調査するため、主要な市場となりうる地域での国際会議、展示会等で情報収集を行い、注目されている用途、研究課題、研究ステージ、市場規模などのその地域での最新情報を取得する。調査対象として、燃料電池技術の活用進展が予想される電力貯蔵分野も含む。また、前年度の調査結果も踏まえ、どのような技術・用途の取組が拡大しているかなど技術や市場の動向を分析する。環境先進国である欧州での環境への取り組みと規制の動向等について、欧州現地の機関を含む関連機関からの情報収集を行い、必要に応じて報告会などを実施する。得られた調査結果を分析・整理し、各地域で必要とされる燃料電池の技術仕様を明らかにする。その上で市場規模等の事業性も勘案して重視すべき技術開発項目を絞り込み、今後海外展開に必要な技術開発の方向性を示す。

② 他のNEDO事業との連携

調査活動により得られた情報と解決すべき課題の最新情報を端的に整理し、NEDOの要請に応じて報告会等を開催してNEDO事業と連携する。

③ 国際標準化動向調査

国際標準化の各国の動きは、3～5年後の事業化を見据えた開発戦略を反映しており情報収集の絶好の機会である。従って、世界各地で開催される関連会議等に参画して日本企業が日本の国際優位性を保持したまま燃料電池関連ビジネスをグローバル展開する上で課題となることが想定される制度・規制上の問題点を抽出し、戦略の構築に着手するとともに国際標準化戦略を継続的に更新する。

(3) 調査期間

NEDOが指定する日から2022年3月18日まで

(4) 予算額

2000万円未満

3. 応募要領

次の a.から c.までの全ての条件を満たすことのできる、単独又は複数で受託を希望する企業等とします。

- a. 当該技術又は関連技術の調査／事業実績を有し、かつ、調査／事業目標の達成及び調査／事業計画の遂行に必要な組織、人員を有していること。
- b. 当該委託業務を円滑に遂行するために必要な経営基盤を有し、かつ、資金等に関する十分な管理能力を有していること。
- c. NEDO が調査／事業を推進する上で必要とする措置を、適切に遂行できる体制を有していること。

4. 提案期限及び提出先

本公募要領に従って提案書を作成し、印刷5部（正1部、副4部）及び電子ファイル（CD-R）を以下の提出期限までに御提出ください。新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、原則郵送でのみの提案書提出を受け付けます

（1）提出期限

2021年1月13日（水）正午必着

※郵送遅延の可能性もあるため、郵送した旨を本公募の問い合わせ先にご連絡ください。

※応募状況等により、公募期間を延長する場合があります。公募期間を延長する場合は、NEDO ウェブサイトにてお知らせいたします。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、提案書への押印が提出期限までに完了しない場合、全法人または一部法人が未押印の提案書も受け付けることとします。ただし提出期限日から30日以内に押印した書類（表紙のみ）を提出してください。その際、提案内容は変更できません。

なお、NEDO 公式 Twitter をフォローいただきますと、ウェブサイトに掲載された最新の公募情報に関するお知らせを Twitter にて確認できます。ぜひフォローいただき、御活用ください。

<https://www.nedo.go.jp/nedomail/index.html>

（2）提出先

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 次世代電池・水素部

平田、湯山、後藤

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 ミューザ川崎セントラルタワー18階

※郵送の場合は封筒に『「燃料電池システムの海外展開に関する要求仕様及び国際標準化動向調査の提案書在中』と朱書きのこと。

（3）提出方法

- a. 応募者は本要領に従い提案書類を作成し、「4.提出期限及び提出先」に基づいて御提出ください。なお、FAX 及び E-mail での提案書類の提出は受け付けられません。
- b. 次の公募関連書類がダウンロードできますので、御参照ください。
 - ・仕様書 (PDF)
 - ・提案書類 (WORD)
 - ・委託契約書 (案) (「調査委託契約標準契約書」を指します。)

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/yakkan.html>

5. 説明会の開催

新型コロナウイルス感染症による影響を考慮し、説明会は開催いたしません。当該公募の内容、契約の手続き、提出書類等のご質問がある場合には、2021年1月7日(木)正午までの間に限り以下の問合せ先への E-Mail にて受け付けます。ただし審査の経過等に関する問い合わせには応じられません。

6. 委託先の選定

(1) 審査

以下の審査基準に基づき提案書類を審査します。なお、審査の経過等に関するお問い合わせには応じられませんのであらかじめ御了承ください。

(2) 審査基準

- a. 提案内容が NEDO の目的・目標と合致していること。
- b. 提案内容の方法、内容等が優れていること。
- c. 提案内容の経済性が優れていること。
- d. 関連分野の実績や知見を有すること。
- e. 当該調査を行う体制が整っていること。
- f. 本調査を行うことにより国民生活や経済社会への波及効果は期待できるか。また、成果の実用化が見込まれるか。
- g. ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況 (平成 28 年 3 月 22 日にすべての女性が輝く社会づくり本部において、社会全体で、女性活躍の前提となるワーク・ライフ・バランス等の実現に向けた取組を進めるため、新たに、女性活躍推進法第 20 条に基づき、総合評価落札方式等による事業でワーク・ライフ・バランス等推進企業をより幅広く加点評価することを定めた「女性の活躍推進に向けた公共調達及び補助金の活用に関する取組指針」が決定されました。本指針に基づき、女性活躍推進法に基づく認定企業(えるぼし認定企業)、次世代育成支援対策推進法に基づく認定企業(くるみん認定企業・プラチナくるみん認

定企業)、若者雇用促進法に基づく認定企業（ユースエール認定企業）に対しては加点评価されることとなります。）

（３）委託先の公表及び通知

a. 採択結果の公表等

採択した案件（実施者名、事業概要）はNEDOのウェブサイト等で公開します。不採択とした案件は、その旨を不採択とした理由とともに提案者へ通知します。

b. 附帯条件

採択に伴う条件を付す場合があります。

（４）スケジュール

2020年

12月21日 : 公募開始

2021年

1月13日正午 : 公募締め切り

1月下旬（予定） : 委託先決定・公表

3月上旬（予定） : 契約

7. 留意事項

（１）契約及び委託業務の事務処理等について

新規に調査委託契約を締結するときは、最新の調査委託契約約款を適用します。また、委託業務の事務処理は、NEDOが提示する事務処理マニュアルに基づき実施していただきます。なお、委託業務事務処理やプロジェクトマネジメントに関する一連の手続きについては、NEDOが運用する「NEDOプロジェクトマネジメントシステム」を利用していただくことが必須になります。

利用に際しては利用規約 (<https://www.nedo.go.jp/content/100897861.pdf>) に同意の上、利用申請書を提出していただきます。PMS 利用申請のご案内は提案書表紙の連絡先に送付いたします。

【参考】

- ・ 委託事業の手続き：約款・様式 <https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/yakkan.html>
- ・ 委託事業の手続き：マニュアル <https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/manual.html>

（２）研究開発独立行政法人から民間企業への再委託

研究開発独立行政法人から民間企業への再委託又は共同実施（再委託先又は共同実施

先へ資金の流れがないものを除く。)は、原則認めておりません。

(3) ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況

提案書の実施体制に記載される委託先について、女性活躍推進法に基づく認定(えるぼし認定)、次世代育成支援対策推進法に基づく認定(くるみん認定・プラチナくるみん認定)、若者雇用促進法に基づく認定(ユースエール認定)の状況を記載していただきます。詳細は『ワーク・ライフ・バランス等推進企業に関する認定等の状況について』を御覧ください。

(4) 公的研究費の不正な使用及び不正な受給への対応

公的研究費の不正な使用及び不正な受給(以下「不正使用等」という。)については、「公的研究費の不正な使用等の対応に関する指針」(平成20年12月3日経済産業省策定。以下「不正使用等指針」という。※1)及び「補助金交付等の停止及び契約に係る指名停止等の措置に関する機構達」(平成16年4月1日16年度機構達第1号。NEDO策定。以下「補助金停止等機構達」という。※2)に基づき、当機構は資金配分機関として必要な措置を講じることとします。併せて本事業の事業実施者も研究機関として必要な対応を行ってください。

本事業及び府省等の事業を含む他の研究資金において、公的研究費の不正使用等があると認められた場合、以下の措置を講じます。

※1. 「不正使用等指針」についてはこちらを御参照ください：経済産業省ウェブサイト

http://www.meti.go.jp/policy/economy/gijutsu_kakushin/innovation_policy/kenkyu-fusei-shishin.html

※2. 「補助金停止等機構達」についてはこちらを御覧ください：NEDOウェブサイト

https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/kokuhatu_index.html

a. 本事業において、公的研究費の不正使用等があると認められた場合

- i. 当該研究費について、不正の重大性などを考慮しつつ、全部又は一部を返還していただきます。
- ii. 不正使用等を行った事業者等に対し、当機構との契約締結や補助金等の交付を停止します。

(補助金停止等機構達に基づき、処分した日から最大6年間の契約締結・補助金等交付の停止の措置を行います。)

- iii. 不正使用等を行った研究者及びそれに共謀した研究者(善管注意義務に違反した

者を含む。以下同じ。) に対し、当機構の事業への応募を制限します。

(不正使用等指針に基づき、不正の程度などにより、原則、当該研究費を返還した年度の翌年度以降 1~5 年間の応募を制限します。また、私的な流用が確認された場合には、10 年間の応募を制限します。)

- iv. 府省等他の資金配分機関に対し、当該不正使用等に関する措置及び措置の対象者等について情報提供します。このことにより、不正使用等を行った者及びそれに共謀した研究者に対し、府省等他の資金配分機関の研究資金への応募が制限される場合があります。また、府省等他の資金配分機関から N E D O に情報提供があった場合も同様の措置を講じることがあります。他府省の研究資金において不正使用等があった場合にも i~iii の措置を講じることがあります。
- v. 不正使用等の行為に対する措置として、原則、事業者名(研究者名)及び不正の内容等について公表します。

b. 「公的研究費の不正な使用等の対応に関する指針」(平成 20 年 12 月 3 日経済産業省策定)に基づく体制整備等の実施状況報告等について

本事業の契約に当たり、各研究機関では標記指針に基づく研究費の管理・監査体制の整備が必要です。

体制整備等の実施状況については、報告を求める場合がありますので、求めた場合、直ちに報告するようにしてください。なお、当該年度において、既に、府省等を含め別途の研究資金への応募等に際して同旨の報告書を提出している場合は、この報告書の写しの提出をもって代えることができます。

また、当機構では、標記指針に基づく体制整備等の実施状況について、現地調査を行う場合があります。

(5) 研究活動の不正行為への対応

研究活動の不正行為(ねつ造、改ざん、盗用)については「研究活動の不正行為への対応に関する指針」(平成 19 年 12 月 26 日経済産業省策定。以下「研究不正指針」という。※3)及び「研究活動の不正行為への対応に関する機構達」(平成 20 年 2 月 1 日 19 年度機構達第 17 号。N E D O 策定。以下「研究不正機構達」という。※4)に基づき、当機構は資金配分機関として、本事業の事業実施者は研究機関として必要な措置を講じることとします。そのため、告発窓口の設置や本事業及び府省等他の研究事業による研究活動に係る研究論文等において、研究活動の不正行為があると認められた場合、以下の措置を講じます。

※3. 研究不正指針についてはこちらを御参照ください： 経済産業省ウェブサイト

http://www.meti.go.jp/policy/economy/gijutsu_kakushin/innovation_policy/kenkyu-fusei-shishin.html

※4. 研究不正機構達についてはこちらを御参照ください： NEDOウェブサイト
https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/kokuhatu_index.html

- a. 本事業において不正行為があると認められた場合
 - i. 当該研究費について、不正行為の重大性を考慮しつつ、全部又は一部を返還していただくことがあります。
 - ii. 不正行為に関与した者に対し、当機構の事業への翌年度以降の応募を制限します。
(応募制限期間：不正行為の程度などにより、原則、不正があったと認定された年度の翌年度以降 2～10 年間)
 - iii. 不正行為に関与したとまでは認定されなかったものの、当該論文等の責任者としての注意義務を怠ったことなどにより、一定の責任があるとされた者に対し、当機構の事業への翌年度以降の応募を制限します。
(応募制限期間：責任の程度等により、原則、不正行為があったと認定された年度の翌年度以降 1～3 年間)
 - iv. 府省等他の資金配分機関に当該不正行為に関する措置及び措置の対象者等について情報提供します。このことにより、不正行為に関与した者及び上記 iii により一定の責任があるとされた者に対し、府省等他の資金配分機関の研究資金による事業への応募が制限される場合があります。また、府省等他の資金配分機関から NEDO に情報提供があった場合も同様の措置を講じることがあります。
 - v. NEDO は不正行為に対する措置を決定したときは、原則として、措置の対象となった者の氏名・所属、措置の内容、不正行為が行われた研究資金の名称、当該研究費の金額、研究内容、不正行為の内容及び不正の認定に係る調査結果報告書などについて公表します。

b. 過去に国の研究資金において不正行為があったと認められた場合

国の研究資金において、研究活動における不正行為があったと認定された者（当該不正行為があったと認定された研究の論文等の内容について責任を負う者として認定された場合を含む。）については、研究不正指針に基づき、本事業への参加が制限されることがあります。

なお、本事業の事業実施者は、研究不正指針に基づき研究機関として規定の整備や受付窓口の設置に努めてください。

c. NEDOにおける研究不正等の告発受付窓口

NEDOにおける公的研究費の不正使用等及び研究活動の不正行為に関する告発・相談及び通知先の窓口は以下のとおりです。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 リスク管理統括部

〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310

電話番号： 044-520-5131

FAX 番号： 044-520-5133

電子メール：helpdesk-2@ml.nedo.go.jp

ウェブサイト： 研究活動の不正行為及び研究資金の不正使用等に関する告発受付窓口

<https://www.nedo.go.jp/itaku-gyomu/kokuhatu_index.htmlへリンク>

(電話による受付時間は、平日：9時30分～12時00分、13時00分～18時00分)

(6) 博士課程後期（学生）の RA（リサーチアシスタント）等への雇用

第3期、第4期及び第5期科学技術基本計画では、優秀な学生、社会人等の各術研究に関する経済的支援を充実すべく、「博士課程（後期）在籍者の2割程度が生活費相当額程度を受給できることを目指す」ことを数値目標として掲げています。

内閣府 科学技術基本計画

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index5.html>

これに則り、本調査でも、博士課程後期（学生）の RA（リサーチアシスタント）等の研究員登録により本調査の委託費として研究員費を支払うことが可能です。

なお、本調査を通じて知り得る秘密情報を取り扱う博士課程後期（学生）は、NEDOと契約を締結する大学組織との間で、守秘義務を含む雇用契約を締結されている必要があります。本プロジェクトに直接に従事する者は、全て研究員登録する必要があります。

(7) 国立研究開発法人の契約に係る情報の公表

「独立行政法人の事務・事業の見直しの基本方針」（平成22年12月7日閣議決定）に基づき、採択決定後、別添4のとおり、NEDOとの関係に係る情報をNEDOのウェブサイトで公表することがございます。御理解と御協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、案件への応募をもって同意されたものとみなしますので、御了承願います。

(8) 安全保障貿易管理について（海外への技術漏洩への対処）

- a. 我が国では、我が国を含む国際的な平和及び安全の維持を目的に、外国為替及び外国貿易法（昭和24年法律第228号）（以下「外為法」という。）に基づき輸出規制※が行われています。外為法で規制されている貨物や技術を輸出（提供）しようとする場合は、原則外為法に基づく経済産業大臣の許可を受ける必要があります。

※我が国の安全保障輸出管理制度は、国際合意等に基づき、主に①炭素繊維や数値制御工作機械などある一定以上のスペック・機能を持つ貨物（技術）を輸出（提供）しようとする場合に、原則として、経済産業大臣の許可が必要となる制度（リスト規制）と②リスト規制に該当しない貨物（技術）を輸出（提

供)しようとする場合で、一定の要件(用途要件・需要者要件又はインフォーム要件)を満たした場合に、経済産業大臣の許可を必要とする制度(キャッチオール規制)から成り立っています。

- b. 貨物の輸出だけでなく技術提供も外為法の規制対象となります。リスト規制技術を外国の者(非居住者)に提供する場合等は、その提供に際して事前の許可が必要です。技術提供には、設計図・仕様書・マニュアル・試料・試作品などの技術情報を、紙・メール・CD・USBメモリなどの記録媒体で提供することはもちろんのこと、技術指導や技能訓練などを通じた作業知識の提供やセミナーでの技術支援なども含まれます。外国からの留学生の受入れや、共同研究等の活動の中にも外為法の規制対象となり得る技術のやりとりが多く含まれる場合があります。
- c. 本委託事業を通じて取得した技術等を輸出(提供)しようとする場合についても、規制対象となる場合がありますのでご注意ください。経済産業省から指定のあった事業については委託契約締結時において、本委託事業により外為法の輸出規制に当たる貨物・技術の輸出が予定されているか否かの確認、及び、輸出の意思がある場合は、管理体制の有無について確認を行います。なお、同確認状況については、経済産業省の求めに応じて、経済産業省に報告する場合があります。また、本委託事業を通じて取得した技術等について外為法に係る規制違反が判明した場合には、契約の全部又は一部を解除する場合があります。
- d. 安全保障貿易管理の詳細については、下記をご覧ください。
- ・ 経済産業省：安全保障貿易管理(全般) <https://www.meti.go.jp/policy/anpo/>
(Q&A <https://www.meti.go.jp/policy/anpo/seminer/shiryo/handbook.pdf>)
 - ・ 経済産業省：安全保障貿易ハンドブック
<https://www.meti.go.jp/policy/anpo/seminer/shiryo/handbook.pdf>
 - ・ 一般財団法人安全保障貿易センター <https://www.cistec.or.jp/>
 - ・ 安全保障貿易に係る機微技術管理ガイダンス(大学・研究機関用)
https://www.meti.go.jp/policy/anpo/law_document/tutatu/t07sonota/t07sonota_jishukanri03.pdf

8. 問い合わせ

本公募に関するお問い合わせは、下記までE-Mailでお願いします。

国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

次世代電池・水素部 平田、湯山、後藤

E-Mail: fuelcell@ml.nedo.go.jp

(受付期間：2020年12月21日～2021年1月7日正午)